

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島郡瀬戸町24
電話 2-9772

学校教育を 振り返って

【子どもの声について】

算数授業づくり

今年度二回目となった算数授業改善推進校の磯小学校では、授業改善方針である「子どもの声でつくる算数授業づくり」のもと研究が進められました。授業公開には、小学校の先生方はもちろん、中学校、さらには高等学校からも参観者があり、研究協議にも熱心に参加いただきました。

磯小学校の今年度の本事業の報告書を見ると、児童の意識の変容（三年から六年）について、算数が好きな児童の割合が年々増加しており、本年度は九割近い児童が肯定的な回答をしています。また、「自分の考えを周りの人に話したり発表したりしている」児童の割合も増加しています。このような成果を上げている磯小学校の取組

は各校において大いに参考になるものと思います。

例えば、意見交流の場で「よくわからない」「なぜ？」と思うことをハンドサイン等で表現することです。そのことにより、そういう気持ちを素直に表現してもいいんだと児童が思い始め、学習への意欲向上につながっています。自分の思いを表現したことをきっかけに、考えを他者に主体的に伝えたり、分かっている児童と分からない児童が対話したりする様子が見られ、これは新学習指導要領が求めている姿そのものです。この取組の良さを理解し、活用した中学校もあり、磯小学校の取組が管内に広がりつつあることを感じました。

この事業では算数を中心に授業改善方針が示され研究が進められています。これらの取組は算数の授業に限らず、どの教科にも通じるものが含まれています。二年目となる次年度も、授業公

開が年三回予定されています。より多くの先生方に授業を見ていただき、学んだことを自校に持ち帰り、実践したり、広めたり、或いは改良して実践したりするなどして、各校でも授業改善に取り組んでいただければと思います。

なお、県内の推進校八校の公開授業の様子がDVDに収められました。新年度に入ってからになります。県内の各小学校にDVDが配布されますので、是非ご覧いただき、ご活用ください。

【学校訪問指導を終えて】

今年度、管内小学校教育の重点の一つとして授業力向上を掲げ、二つの視点を設定していました。それぞれについて振り返ります。

一つ目は「支え合い高め合う集団づくりを進め、児童生徒の学習意欲の向上を図る。」についてです。

各小中学校では、学習規律が大切にされ、安定した学習環境の中で進んでいました。また、児童生徒が一人ですっきりと考え、その考えをペアやグループ、学級全体に伝える場の設定がなされている授業を多く見ることができました。

今後は、さらに一人一人の児童生徒の声を、どのようにつなげて関わらせると、深まりのある授業をつくることができるのか、各校で試行錯誤し取り組んでいただきたいと思っています。

二つ目は「次期学習指導要領を見据え、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業づくりを行う。」についてです。

多くの学校で単元のゴールの姿を明確にした授業、各単元でどんな力を付けたいのかを明らかにした授業が行われていました。また、指導過程が緻密で、板書計画やワークシート等、丁寧に準備されている授業も多く見られました。

次年度においては、新学習指導要領完全実施に向けて、「解いてみたい」「やってみよう」「考えてみたい」等、児童生徒が自主的に学びを取りに行く仕掛けを工夫していただき、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりをさらに進めていただきたいと思っています。

最後になりましたが、学校訪問実施にあたり、日程調整や当日の対応等、ご配慮いただき感謝申し上げます。
(文責 吉山)

社会教育を 振り返って

【ふるさと教育の充実】

各中学校区では、「ふるさと教育全体計画」等を作成し、各学校のねらいや取組を明らかにするとともに、「ふるさと教育ネットワーク会議」を設立し、学校と地域が連携して進めていく体制づくりに取り組んできました。

今後は、より一層の充実をめざし、全体計画等において、ふるさと教育のねらいの焦点化や系統性の明確化を図れるような支援や、ネットワーク会議において、学校と地域がより効果的な話し合いが持てるような支援をしていきます。

【地域を担う人材の育成】

また、地域においては、公民館事業等を活用し、子供たちとともに、大人がふるさと隠岐の魅力や価値に気づき、理解を深める機会を増やすことで、地域を支える次世代の育成を進めていけるよう働きかけます。

【学校家庭教育支援体制の整備】
「結束！しまねの子育て協働プロジェクト」を推進し、各町村が協働本部を設置し、組織的な充実（運営委員会の機能向上やコーディネータ

1の効果的配置など）を図り、学校関係者や地域関係者がより連携して取り組めるよう支援してきました。今後は、アンケート等を通して町村の推進状況を把握し、実情に応じた連携・協働のあり方を探っていきます。

家庭教育支援については、社会教育が担うべき役割や進むべき方向性について確認し、「しまねの家庭教育支援」について共通認識を持つために、まずは、町村における取組や福祉部局との連携等の現状・課題等について情報収集・分析し方向性を探っていきます。

町村における地域リーダーの育成に向けて、研修会等を隠岐地区で開催したところ、一定の参加者があり、その研修会等で学んだことをそれぞれの地域で活かしたり、次の機会につながりする動きも見られました。

今後は、人材育成の講座や研修会の開催だけではなく、町村において、地域課題解決型の講座を公民館等で実施し、当事者意識の醸成を図り、地域を担う人づくりを進めていけるよう支援していきます。(文責 林)